



59 春播きニンジンに挑戦

生育初期はこまめに除草

ニンジン(セリ科)の野菜で原産地は中央アジア。発芽適温15～25度、生育適温は18～21度。有機質が多く膨軟で保水性、排水性の良い所を好みます。種子は吸水力が弱く乾燥した土壌では発芽率が著しく低下します。発芽が栽培のポイントです。春播き(2, 3月)は土壌温度が低く土壌水分が保持され発芽しやすいですが、地温の確保が必要です。

1. 品種

春播きの場合は、低温により開花する可能性があるため、晩抽性の品種を選びます。「向陽2号(コート種子)」「時なし五寸」「ベータリッチ(コート種子)」などがあります。「向陽2号」は、晩抽性、耐暑性があり、根の肥大、そろいもよいです。「時なし五寸(裸種子)」は、耐暑性、晩抽性があり、春、夏播きができます。「ベータリッチ」は、播種時期が広く極立性で密植栽培ができます。

2. 畑の準備

種播きの2週間前に苦土石灰を1平方メートルあたり100グラム散布し耕うんします。1週間後に堆肥2キログラム、化成肥料(成分15・15・15)100グラムヨウリンを20グラム散布します。根の下に肥料の塊などがあると又根になりやすいのでよく耕します。

3. 播種

畝幅140センチ(床幅75センチ、通路幅65センチ)の畝を立て、黒マルチ(幅95センチ、15×15センチ5穴)を使用し条間株間15センチで、播種は1穴に10粒(コート種子は3粒)程度播きます。ニンジンは発芽に光が必要で薄く土をかぶせます。播種後はクワなどで鎮圧をして灌水します。春播きは、不織布を掛け抽苔の防止と生育の促進を図ります。

4. 間引き、追肥

本葉2, 3枚の頃に1穴に3本、本葉5, 6枚の頃に1穴に2本に間引きします。2回目の間引き時に追肥用化成肥料を1平方メートルあたり20グラム施します。

5. 管理

生育初期は生育が遅く草の生育が勝るのでこまめに除草を行います。不織布は4月後半気温が上がってきたら取り外します。

6. 害虫

連作する場合はネコブセンチュウに気をつけます。

7. 収穫

地際の根の直径が5センチ程度になったら葉の付け根を持って引き抜き収穫。雨で腐れが出るので6月中旬頃までに収穫するとよいです。



(鹿児島市都市農業センター)